

妊婦さんに接種する百日咳の母子免疫ワクチン「トリビック」について

・百日咳

百日咳は特有なけいれん性の咳発作を特徴とする急性気道感染症で、特に生後半年未満で感染すると呼吸困難などを呈して重症化し、半数以上が入院治療を必要とします。我が国の百日咳含有ワクチンは生後 2 か月ごろより接種が可能ですが、特にワクチン未接種の月齢では母親からの免疫（経胎盤移行抗体）が不十分だと早期に感染してしまう可能性もあります。

妊娠後期に百日咳含有ワクチンを接種すると、お母さんの身体の中で作られた抗体が胎盤を介して赤ちゃんに移行するため、赤ちゃんを百日咳の感染から守ることができると考えられています。そのため海外では妊娠後期に Tdap という百日咳含有ワクチンの接種を推奨しているところが多いですが、日本では Tdap は認可されていませんので、代わりに DTaP 沈降精製百日咳ジフテリア破傷風混合ワクチン（一般名：トリビック） という百日咳含有ワクチンを使用することになります。

・CDC（疾病対策予防センター）からの効果の報告

妊娠第 3 期における Tdap ワクチン接種により、生後 2 ヶ月未満の乳児の百日咳症例の 78%が予防される。

対象 ・妊娠 27 週～36 週の方が対象です。

* より効果的な接種時期は上記内の早い時期といわれています。

接種回数 1 回

価格 5,600 円

予約 接種をご希望の方は必ず事前に担当医に伝えて予約をお願いします。

外来受診当日に希望し、接種することは対応していません。

[妊娠にむけて知っておきたいワクチンのこと | 妊娠中に接種が推奨されるワクチン | インフルエンザ・新型コロナウイルス・百日咳・RS ウイルス](#)

日本産婦人科感染症学会からお知らせです。